

Taiwan FTZs, anchorage in Asia and springboard to the world



NICHE OF THE FREE TRADE ZONE IN TAIWAN

The Permitted Business Models In FTZ

Trading, warehousing, logistics, consolidating and distributing (cargo of) containers, transit-ing, transshipment, forwarding, customs clearance, assembling, sorting, packaging, repairing & maintenance, fabricating, processing, manufacturing, examining, testing, displaying or technological services.



Autonomous Management
Customs review enterprise's account through the system

Free Circulation of Goods
Goods are free from inspection, testing, and escorting. Management of goods under monthly consolidated declaration incoming to and outgoing from the zone/factory.

Allowing in-depth processing
The in-depth processing is allowed for FTZ including assembling, processing, manufacturing, etc.

Offering Tax Preferential
Exempt from tariff, commodity tax, business tax, tobacco & wine tax, public health & welfare due on tobacco products, trade promotion service fee, harbor service due. Foreign for-profit conditionally exempt from business income tax.

Inside the Border but Outside of Customs
Goods shall be exempted from relevant duties and taxes and free from the import restrictions set forth in other acts, regulations or orders.



TIPC
臺灣港務股份有限公司
TAIWAN INTERNATIONAL PORTS CORP., LTD

TAIWAN INTERNATIONAL PORTS CORP., LTD

<http://taiwan-ftz.com.tw/en>

marketing@twport.com.tw +886-7-2136982



FTZ website

競争力強化へ、新マスタープラン

■ TIPC

台湾のハブ戦略を担うTIPC（台湾港務）はコロナ禍の中、新たな競争力強化に向けて新たなマスタープランを策定した。今後、行政院の承認を経て関連プロジェクトを推進するとともに、インセンティブ制度やターミナル計画、自由貿易区の投資促進などさまざまな取り組みを開始する予定だ。

4本柱で取り組み推進

TIPCは2012年、台湾政府全額出資の港湾運営会社として発足。高雄、台北、基隆など国際港湾7港、国内港湾2港について港湾運営を担っている。

これまで台湾各港のデジタル化やインフラ開発、自由貿易区（FTZ）開発や海外投資など、さまざまな取り組みを通じてハブ港戦略の拡大に取り組んだTIPCだが、今年は「コアビジネスを安定させつつ、多様な展開を拡大する」という戦略のもと、①コアカーゴビジネスの集約②資産投資の活性化③事業領域の拡大・多様化④スマートポートへの転換」という4本の柱を策定した。①では今年、「台湾国際商業港の将来的な発展と建設のためのマスタープラン（2022～2026年）」を行政院に提出。港湾競争力の強化により、海外からの投資を呼び込み、寄港サービスの拡充や港湾の処理能力拡充を図る方針だ。

新しい取り組みとしては、③の「事業

領域の拡大と多様化」が挙げられる。昨今の環境負荷低減の流れに合わせ、台中港と台北港を洋上風力発電の拠点として位置付け。風車のタービン組立、タービン製造の現地化や運転・保守、トレーニングセンターと4項目を柱に事業計画を進めており、最近では新たに新会社「台湾国際風力発電訓練（TIWTC）」を設立している。

インドネシア事業、着実に成長

台湾はこれまで、アセアン諸国や南アジアとの関係強化を目指し、新南向政策を推進してきた。以前より、中国や韓国の釜山が東アジアのハブ拠点として存在感を高め、高雄港など台湾のハブ拠点は取扱量が伸び悩む傾向があった。しかし、東南アジア各国の経済発展に加え、荷主の東南アジアシフトが強まってきたことで、東アジアと東南アジアの結節点に位置する台湾が再び注目されている。アジア地域の国際サプライチェーンにおいて、これまで上海や釜山などがハブ拠点としての比重が高かったが、東南ア

ジア発着の物量拡大を背景に状況は変化してきた。特に新型コロナウイルスの影響で、サプライチェーン見直しや調達多様化の必要性が再認識されるなか、この傾向はより一層拍車がかかってきた。

TIPCは18年から、この新南向政策に基づいて海外投資を積極化してきた。最初の投資先として選んだのはインドネシアだ。同国の経済成長や2億4000万人の人口に支えられた市場規模、台湾との関係性などから選定したもの。このため、同じ台湾の大手船社の1社であるヤンミンと提携する形で、18年5月にインドネシアのスラバヤに物流会社「PT.Formosa Sejati Logistics」を設立。現在、同社はスラバヤの港湾付近でコンテナデポや倉庫・物流サービス、その他の港湾関連サービスを提供している。開業から3年経ち、新規顧客の開拓や利用増が進んでおり、TIPCは「効率的な経営を心掛けることで着実に事業成長が進んでいる」としている。



笑顔をはこぶ、未来へつなく

南西海運株式会社

代表取締役会長兼社長 下地 米蔵

〒900-0001
 沖縄県那覇市港町2丁目6番18号 南西海運ビル8階
 【本 社】 TEL : 098-868-1848 FAX : 098-869-1130
 URL : <https://nanseikaiun.co.jp/>

〒812-0011
 福岡県福岡市博多区博多駅前2-19-17
 【福岡営業所】 トーカン博多第5ビル6F 605号室
 TEL : 092-475-3222 FAX : 092-475-3223

港湾IT化を積極推進

港湾分野のデジタル化で注力するのが「Trans-SMART」戦略だ。

この計画は、ビッグデータ、IoT（モノのインターネット）、AI（人工知能）などの新興技術の発展に伴い、スマート技術を用いて革新的で先進的、持続可能な近代港湾を実現するというビジョンのもと取り組みが進められている。革新的なIT技術の導入によって港湾運営における安全性と効率性の双方を強化することを狙っており、その範囲は海運、貨物輸送、港湾管理などさまざまな分野をカバーし、具体的なアクションプランも検討・実施されている。

海上輸送分野では、「ポートセキュリティシステム」「船舶航行支援システム」「インテリジェントパーキングシステム」「インスタントウェザーサービス」などが既に導入されている。船舶航行支援システム（Ship Navigation Aid System）は、過去のビッグデータを分析して最適な航路と必要なパラメータを算出するもの。入港した船の現状と最適化された進路や方位、速度などの数値を比較。船の航行に異常が見られた場合、システムが警報を発し、VTSのスタッフが船上のパイロットや船長に早期に警告を発し、衝突可能性を回避することができる。



基隆港でTIPCが運営する物流施設

さらに陸上輸送分野では、昨年に「ポートセキュリティシステム」の導入を完了。高度な監視装置を利用して港全体の情勢をモニタリングし、港内で発生したさまざまな状況に対してスタッフが迅速に対応できるような体制がとられている。

ターミナル運営そのものについてもデジタル化を進め、今年は「Trans-SMART 2.0 Plus」の推進を図る。港湾環境、船舶の接岸、荷役、輸送、環境モニタリング、港湾施設の検査などの重要な領域に焦点を当て、ビッグデータ分析、モノのインターネット、AI、自動運転車などの技術応用を組み合わせにより、港湾運営の効率化を図る。

FTZ、21年は取り扱い回復へ

海外投資や国内でのインフラ整備

と歩調を合わせる形で、TIPCはFTZの利用拡大にも力を入れる。FTZは現在、台湾内で基隆、台北、台中、安平、高雄、蘇澳の6カ所に加え、桃園空港近郊も加えた計7カ所に設置済み。従来のILC（国際物流中心）制度では、保税状態での在庫が可能であるのに対し、FTZでは域内での加工や委託加工が可能となる。いずれも港湾や空港などの隣接地に指定されており、輸出入のトランジット貨物を主眼に海外から物品を輸入し、それらを加工してさらに他国に輸出するようなサプライチェーンの実現を描いている。

TIPCによると、昨年こそパンデミックの影響でFTZでの取扱量は減少したものの、その後経済活動の再開に伴い、取扱量は堅調に推移しているという。

Sail for the **New** Beginning
漕ぎ出そう、未来へ



夢とくらしと文化をはこぶ

 琉球海運株式会社

沖縄県那覇市西1丁目24番11号
TEL:098-868-8161 FAX:098-868-8561
台湾駐在員事務所
TEL:02-2581-1585 FAX:02-2511-0199
URL:<https://www.rkkline.co.jp/>